

# 映画を社会・学校から家庭まで届ける

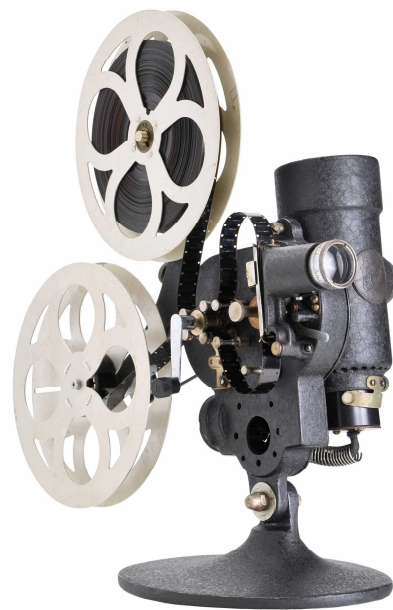
## —小型映画とエルモ社—

### ■小型映画の日本への登場

日本において小型映画が本格的に普及し始めたのは1923(大正7)年からであり、フランスのパテ・フレール社の9.5ミリ製品と、アメリカのイーストマン・コダック社の16ミリ製品が、両国での発売と時を経ずして販売された。両社ともまずは映画フィルムと映写機を発売し、この後にカメラと生フィルムを発売した。これによって利用者は家庭での映画鑑賞を主にした層から、写真愛好家や映画制作を試みる個人、団体へと広がっていった。

### ■国産小型映写機の開発

名古屋で写真機の修理や写真用品の製造販売を行う榊商会を立ち上げていた榊秀信は1927(昭和2)年、国産初の16ミリ映写機を完成させ、「エルモ16ミリ映写機A型」として販売した。これは光源反射式で手回し式であった。さらなる改良を進め、モータや映写電球を国内各社の協力を得て開発し、画期的なフィルム送り機構を開発するなどして、1930年に純国産機といえる「D型」の製品化にいたる。1933年には合名会社エルモ社を設立した。不世出の名機といわれた「躍進号」を1935年に発売する。躍進号は16mm/9.5mm/8mmフィルムに対応できる優れたものであった。榊は早くから映画教育(戦後、視聴覚教育と呼ばれる)に強い関心を持っていた。映画教育運動の活発化の機運の中で、エルモ16ミリ映写機は、学校教育や社会教育の教具に採用され、映画教育に大きな役割を果たしていった。



エルモ16ミリ映写機A型  
写真：榊信之氏提供

### ■8mm映写機と撮影機 —ホームムービーの隆盛—



8ミリ撮影機 8-A

エルモ社は戦前に16ミリおよび8ミリ撮影機も完成させていたが、本格的な展開は戦後になってからである。1954(昭和29)年に戦後最初の国産8ミリ映写機E-80を発売し、5年余り単独ベストセラーとなる。1955年にはゼンマイ駆動方式の8ミリ撮影機8-Aを発売した。交換レンズなど豊富なアタッチメントも矢継ぎ早に発売し、8ミリシネプームはエルモ社によって幕が開かれた。国産の8ミリカメラで初めて電動モータ駆動となったエルモ8RTは1957年に登場している。エルモクラブにシネ部を併設し、春秋2回の撮影会、年1回の8ミリ映画祭を行って、愛用者の親睦と技術の向上に努めていた。

カメラメーカーも8ミリを重要視するようになり、8ミリカメラと映写機は次々に新型が発売され、自動化・簡略化が進んだことでより多くの人が扱えるようになった。

8ミリの普及に伴って、家族の様子を映像に残す人々が増えていった。これらのホームムービーは、家族に共有される意識や記憶に映像という新しい形を与えた。

1980年代後半に始まるビデオカメラの普及で、国内メーカーの8mmフィルムは2007(平成19)年に出荷終了になった。映画フィルムを人類共通の文化遺産として保存継承していくことを目指している映画保存協会は、世界的な記念日である毎年10月の第3土曜日のホームムービーの日 Home Movie Day に応えたイベントを2003年から呼びかけ、全国各地で開催されている。

(黒田光太郎)



ホームムービー「知多内海 海水浴」より  
1961(昭和36)年撮影 名古屋市博物館館蔵 同館HPより取得